

# 麦作技術情報 No. 3

令和2年3月12日  
鳥取県産米改良協会

令和元年播種麦は、高温の影響により、生育が早く幼穂形成期は2週間程度、直近予測では、例年に比べ1週間程度出穂が早まる生育である。今後は、適期を逃さないよう病虫害防除等の管理を確実に行うことが重要である。

## ■病虫害防除

- ・ほ場ごとに出穂期に応じて適期防除を行う。
- ・赤かび病は、収量や品質が低下するばかりでなく、人や家畜に有毒なかび毒を発生するため、予防防除を徹底し、発生させないよう努める。
- ・高温になっていることから、網斑病に注意し、発生を見たら、適期防除に努める。

## ■排水対策

- ・湿害は出穂後の登熟に悪影響を及ぼす。特に登熟に大きな役割を果たす麦の細根の発達を阻害し、登熟不良の原因となる。
- ・排水路の点検等を定期的に行い(明渠と排水溝をつなぎ、速やかに排水されるようにする)土壌が乾きやすく湿害を受けない環境を作ることが重要である。

### 【現在までの気象経過】

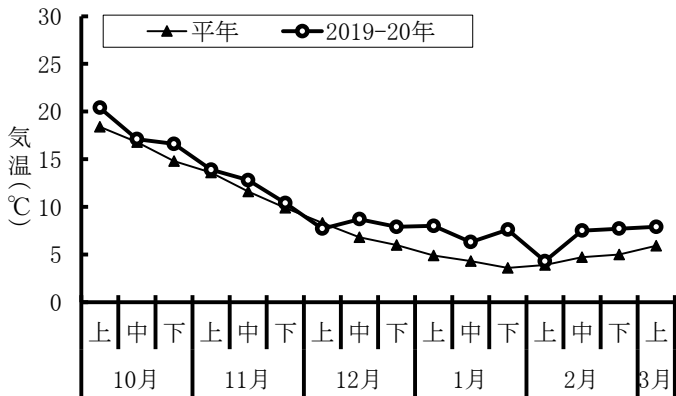


図1 2019-20年日平均気温(倉吉市)

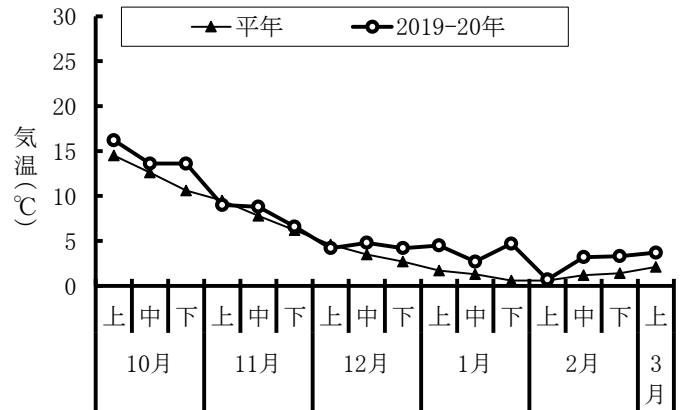


図2 2019-20年日最低気温(倉吉市)

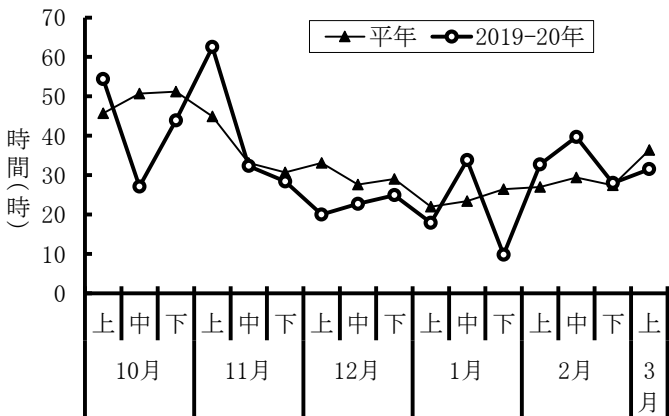


図3 2019-20年旬別日照時間(倉吉市)

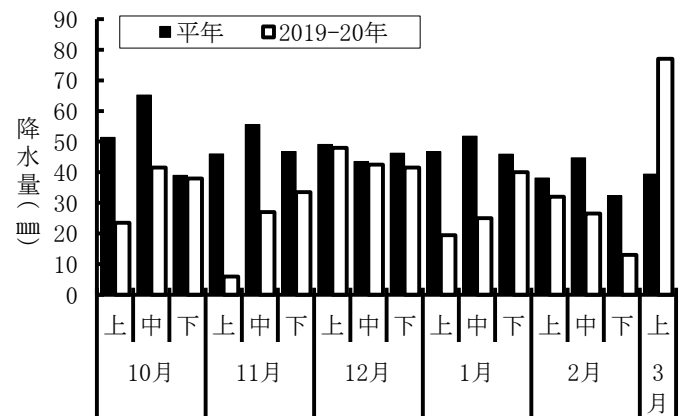


図4 2019-20年旬別降水量(倉吉市)

11月上旬から2月下旬までの2019~20年の気象は総じて気温が高めであり、特に1月は高温で経過している。平年に比べ高温(平年差+1.7℃)、日照時間は並(平年対比97%)、降水量は少なく(平年対比75%)経過している。

3月上旬時点の、麦の生育は、過去平均に比べ葉齢が2葉進んでおり、茎数は多く(過去平年対比114%)、草丈は長く(同対比147%)、葉色は濃く(同対比117%)推移している。

# I 気象予報

## 中国地方 1か月予報 (3月14日から4月13日までの天候見通し)

令和2年3月12日  
広島地方気象台発表

### <特に注意を要する事項>

2週目は気温がかなり高くなる見込みです。

### <予想される向こう1か月の天候>

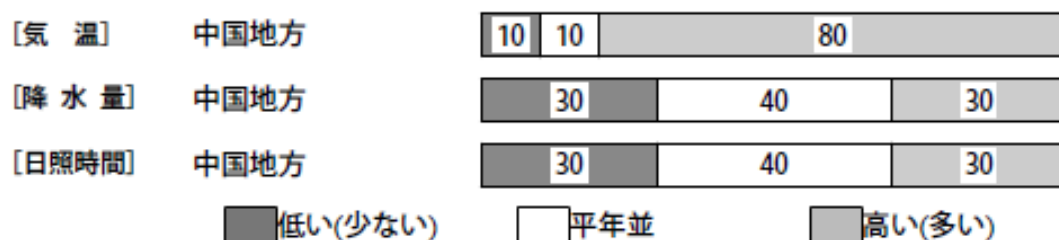
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

山陰では、天気は数日の周期で変わるでしょう。山陽では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

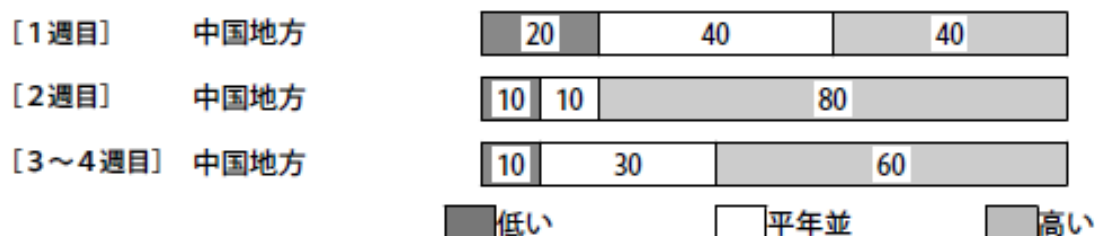
向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、高い確率60%です。

### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >



### <気温経過の各階級の確率 (%) >



### <予報の対象期間>

1か月 : 3月14日(土)～4月13日(月)  
1週目 : 3月14日(土)～3月20日(金)  
2週目 : 3月21日(土)～3月27日(金)  
3～4週目 : 3月28日(土)～4月10日(金)

## II しゅんれい(二条大麦)の生育概況

### 【現地ほ場】

#### ○2月上旬

- ・一部で湿害による生育不良が見られるが、生育は概ね順調で、茎数も確保できている。
- ・暖冬により、茎立が1週間程度早まっている。

#### ○3月上旬

- ・県中部では、10月下旬播種ほ場で部分的に芒が見え始めている状況。
- ・葉色の濃いほ場では、葉や幼穂の進展が遅くなっている。
- ・第2回目の穂肥は、平均的なほ場では、概ね2月末から3月初旬をめどに施用され、播種の遅い生育のやや遅いほ場では3月上旬施用されている。

### 【農業試験場生育観測ほ場】

#### ○2月上旬

- ・1月中下旬に茎立期を迎え、1/24 時点で幼穂 10mm、節間 45mmを確認した。(昨年茎立期:2月上旬)
- ・積雪もなく、気温も高く推移している影響で、分けつは少なく、葉齢の進展も早い。(草丈は 30cm程度、葉齢は早いもので 9.3L 程度)

#### ○3月上旬

- ・麦の生育は、過去平均に比べ葉齢が2葉進んでおり、茎数は多く(過去平年対比 114%)、草丈は長く(同対比 147%)、葉色は濃く(同対比 117%)推移している。・例年にない暖冬の影響で、生育の進展がかなり早く、2/25に出穂始を確認した。
- ・2月に2度の積雪があり、穂ばらみ期での低温遭遇となったため、不稔の発生が懸念される。
- ・茎立ち以降の積雪があり、倒伏は1割程度となっており、甚大な被害とはなっていない。
- ・農試では2/4に穂肥Ⅰ(生育相:止葉抽出の3~4日後)を、2/21に穂肥Ⅱ(生育相:芒抽出~出穂始)を施用しており穂肥施用の生育相としては遅い施用となっている。
- ・2/14からの出穂期予測について、場内「しゅんれい」の出穂期は3/16~19と予測しているが、過去に例のないほど早い生育進展となっており、予測精度は不明である。
- ・近県でも例年に比較し、暖冬により、2~3週間ほど生育が早くなっている状況である。

### ビール麦「しゅんれい」における生育の前年比較

項目	播種約4ヶ月後(3月上旬)							過去平均 比(差)
	2013年 度	2014年 度	2015年 度	2016年 度	2017年 度	2018年 度	2019年 度	
茎数・穂数/m <sup>2</sup>	1197	888	-	806	816	618	986	114
草丈cm	30.7	23.2	36.9	29.9	27.4	39.5	45.8	147
葉色SPAD	38.5	38.4	35.0	36.8	42.5	41.5	45.5	117
葉齢	6.9	7.5	9.4	8.1	8.4	9.7	10.7	2

### Ⅲ 技術対策

#### 1 排水対策

- ・登熟期の湿害は収量や品質に悪影響を及ぼす。
- ・大麦は、充実度が悪い等の理由で等級の低下となる場合が多い。充実度が低下する要因の一つとして登熟期の湿害の影響が大きいことから、冬季に明渠等が埋まって排水を阻んでないか、排水状況を点検し、手直しを行い速やかに排水が出来る状況にする。

#### 2 病害虫防除

##### (1) 網斑病

- ・気温が高くなっており葉色の濃い過繁茂ほ場では、特に注意が必要である。
- ・発生ほ場では、病気がまん延する前にチルト乳剤 25 (1,000 倍、収穫 21 日前まで、1回) 等を散布する(展着剤を加用のこと)。

##### (2) うどんこ病

- ・高温傾向で多発する病害で、現在のところ発生した情報は伝えられていないが、動向に注意し発生を確認した場合は防除を行う。

##### (3) 赤かび病

- ・赤かび粒に対する検査基準が厳しくなっており、防除を徹底する。
- ・本病は、出穂期以降の高温(20～27℃)、降雨により発生が助長され、発生すると出荷できなくなるので、すべてのムギで防除の徹底が必要である。また、発病後の防除は困難であるので、下表のとおり適期防除を徹底する。

##### 赤かび病防除対策

	麦種	防除時期	農薬名
1回目	二条大麦	穂揃期の10日後頃	シルバキュアフロアブル または ワークアップ粉剤DL
	六条大麦	開花を始めた時期～開花期	
	小麦	〃	
2回目	二条大麦	1回目散布の7～10日後 (多発生が予想される場合)	トップジンM水和剤 または トップジンM粉剤DL
	六条大麦	1回目散布の7～10日後	
	小麦		

##### 使用基準(赤かび病)

農薬名	使用量	使用時期	本剤の使用回数
シルバキュアフロアブル	2,000倍	収穫14日前まで 小麦は7日前まで	2回以内
ワークアップフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ワークアップ粉剤DL	3kg/10a		
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	大麦: 収穫30日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)
		小麦: 収穫14日前まで	3回以内(出穂期以降は2回以内)
トップジンM粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内) 小麦は出穂期以降2回以内

##### (注)

- ・多発生条件下では、シルバキュアフロアブル、トップジン M 水和剤、トップジン M ゴルおよびワークアップフロアブルの防除効果が高い。
- ・水和剤の散布に当たっては、展着剤を加用する。
- ・大麦ではチオファネートメチル剤(トップジンM水和剤、同ゴル、同粉剤等)の使用回数は出穂期以降1回以内となっているので注意する。

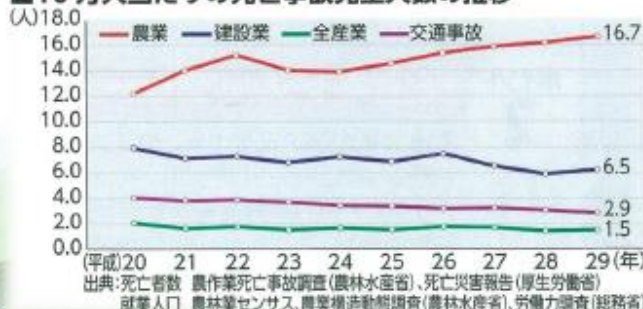
農作業事故防止を徹底しましょう。3月1日～5月31日まで春の農作業安全運動期間です。

# 農作業事故ゼロを目指して

## 1 農作業事故の実態と安全のポイント

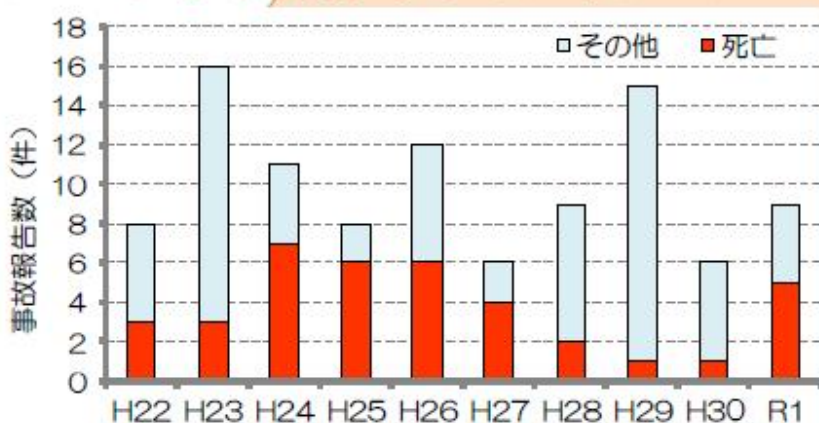
農作業には、多くの危険が潜んでいます

■10万人当たりの死亡事故発生人数の推移



今年は死亡事故多発中!

県内でも毎年農作業事故が発生しています



県内の農作業事故報告数の推移

注: R1は10月末現在

鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会(愛称:農安協)

## 2 実際の農作業事故事例と対策

【事例1】 東部 50代 男性	発生状況	交配樹の花取り作業中。電動ハサミを使用し、枝切作業のため脚立に乗りかけた時に、バランスを崩した。その際に、電動ハサミで左手人差指を切断した。
	原因	電動ハサミの電源を入れたまま、不安定な脚立に乗りかけたため。
	対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体制が不安定な場所で、電動ハサミを使用しない。</li> <li>・移動するときは、こまめに電源を切り、誤動作を防ぐ。</li> </ul>
【事例2】 西部 60代 男性	発生状況	トラクターのロータリーを上げて、ロータリーの爪を交換していたところ、ロータリーが下に下がってきて、顔面裂傷、腕を骨折した。
	原因	ロータリーのハズレ防止ロックの忘れ。
	対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジンがかかった状態では、絶対に作業機とトラクターの間に入らない。</li> <li>・油圧ロックがかかっているか確認する。</li> <li>・作業時は、ヘルメットを着用、正しい服装(裾がひらひらしない等)で実施。</li> </ul>
【事例3】 西部 80代 男性	発生状況	自宅前の道路を走行中、草で路肩がはっきりわからず、道路から3m下の畑に転落、下敷きになって死亡した。
	原因	雑草が繁茂しているにも関わらず、道路をよく確認しないまま走行、道路から外れて転落した。
	対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路と畦畔の境目を、目印を設置する等、事前に確認しておく。</li> <li>・カーブでは十分に減速し、内回りにならないよう気をつける。</li> <li>・低速車マークや反射板(シール)をつける。</li> </ul>
【事例4】 中部 60代 男性	発生状況	夕方の薄暗い状況でバック耕耘していた。ハウスの端にきてアクセルを高速のままの状態でも方向転換しようとしたが、ハウスのパイプと歩トラの間に挟まれ、両足をローターに巻き込まれた。
	原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業場所の整理が不十分。</li> <li>・後方の状況の確認不足。</li> <li>・方向転換の際のアクセル操作の間違い。</li> <li>・ロータリー部分の安全カバー類は装着していない状態であった。</li> </ul>
	対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業場所の整理。</li> <li>・方向転換の際の周囲の状況確認。</li> <li>・方向転換の際はエンジン回転数を落とす。</li> <li>・ロータリー部分の安全カバー類の適切な装着。</li> </ul>
【事例5】 西部 60代 男性	発生状況	稲刈り作業後、コンバインで国道を移動中、後方から来た乗用車に追突された。追突された衝撃で運転者は車外に投げ出され、頭を強く打ち、一時意識不明の重体となった。
	原因	後方から来た乗用車の運転手の前方不注意。
	対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低速車マーク、反射シール等の装着。</li> <li>・公道走行時のヘルメットの着用。</li> </ul>



安全な農作業を心がけることが第一ですが、万が一の事故に備えて、「労災保険」に加入しましょう。